

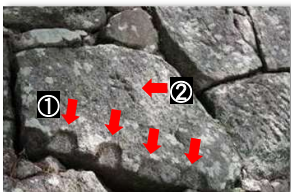
津城は三重県津市丸之内にあり、津市街の中心部に位置します。北は安濃川、南は岩田川に挟まれ、これらを天然の天外堀としていました。天正8年(1580) 織田信包により築城され、富田信高の後に津城に入った築城の名手・藤堂高虎により近代城郭として大改修され、津藩の藩庁となりました。

江戸時代の津城は中央に広大な内堀で囲まれた本丸と、それに付属して東の丸・西の丸があり、それらを取り囲んで二の丸が配された輪郭式の平城でした。

現在の城跡は「お城公園、お城西公園」として整備されています。また、その他の城址には津市役所や裁判所、津警察署などが建ち並んでいます。

津城石垣 基礎知識

津城では「矢穴」と「刻印」が多く見られます。
石を積みやすくするために割った痕である「矢穴」は、慶長以降に積まれた石垣に見られます。
「刻印」は、石を選定し切り出し、城で積むそれぞれの過程で付けられた目印で、それぞれ担当した石工集団の識別のため付けられたといわれています。



西鉄門付近の矢穴①と刻印② ☐

津城では墓石など違う目的のために加工された石材を石垣に組み込んだ「転用石」が数カ所見られます。



北多門櫓台南面付近の転用石 ☐

津城では戦国時代から現代までの様々な積み方の石垣を見ることができます。



算木積み ☐



野面積み ☐



切込みはぎ ☐



打込みはぎ ☐



谷積み(落とし積み) ☐



津城本丸・西の丸復元模型
(津センターパレス地下1階)



津市観光ボランティアガイド 安濃津ガイド会

【申込み・お問い合わせ】
津市観光ガイドネット
(津市観光協会内)
TEL: 059-246-9020
FAX: 059-221-0811



津城案内 QR コード



続日本 100 名城

津城跡 石垣めぐりマップ



⑫ 津城大天守台の算木積み ☐

確かめたらチェック ☒

津城は、「築城の名手藤堂高虎」が築城の粋を集めて築いた城。
あなたも石垣づくりの名人といわれた高虎の「高虎流石垣」を
その目で確かめてみませんか。

津城では藤堂高虎が石垣づくりに多用した「算木積み」や「犬走り」、「矢穴」「刻印」などを見ることが出来ます。石は主に津市周辺より採掘され、石材は花崗岩などが使用されています。津城に現存する石垣は、一部に織田信包や富田信高の時代に築かれたと思われる部分(野面積み)を残すものの、ほとんどは慶長期の石垣を中心としており、その多くが高虎改修時のもの(打込みはぎ・切込みはぎ)です。また、江戸時代より近代にかけて数度の修復を受けた形跡が確認できます。明治以降に改修されたり取り払われた部分はあるものの、本丸と西の丸の石垣はほぼ往時のまま残っています。

石垣づくりの名人ともいわれた高虎は、石垣の隅部に「算木積み」を多用しました。算木積みは石垣積みの要である隅部を補強し、崩れにくくする工法です。算木積みの強さは、平成28年(2016)の熊本地震で崩れなかった熊本城飯田丸五階櫓の算木積みでも証明されています。高虎は算木積みで改良を重ね、直線的にまっすぐに高く積む技術を生み出しました。津城本丸の石垣は、内堀より約10mの直線的な算木積みを採用しています。また、同時期に高虎により改修された伊賀上野城本丸西部の高石垣は、約30mの高さを誇ります。

また「犬走り」は、高虎の前任地である今治城(愛媛県)において、海城の欠点である軟弱な地盤を補強するために考案されたものです。津城本丸を囲む広大な内堀(最大幅約100m)は沼地となっており、津城の犬走りも同じく軟弱な地盤を補強するために設けられました。しかし戦後の内堀埋め立てによって現存していません。

石垣の積み方も慶長期には飛躍的な発展を遂げました。津城では、野面積みから打込みはぎ・切込みはぎと進化する過程で、石垣を加工した痕である「矢穴」も散見することができます。また、石垣に彫られた様々な模様の「刻印」も豊富に見ることができます。



⑫ **大天守台の算木積み** □
隅部をまっすぐに積むきれいな算木積みが見られます。寛文期改修時のものです。大天守台の大きさは、南北 16m東西 14mあります。



⑬ **埋門** □
寛永16年（1639）に本丸よりの脱出口として造られました。きれいな算木積みと切込みはぎを見ることができます。石垣表面には「のみ」により「すだれ仕上げ」がしてあります。



⑭ **西多門櫓台** □
西鉄門が接続され「柵形」を形成していました。全ての面にたくさんの「刻印」を見ることができます。



⑮ **北多門櫓台** □
野面積みに近い打込みはぎの石垣です。「転用石」を見ることができます。石垣の上には幅約 6m長さ約 95mの長大な多門櫓が建っていました。



⑯ **北多門櫓台と戌亥櫓台** □
北内堀と石垣が一番きれいに見える場所です。全てが打込みはぎの積み方です。戌亥櫓は高虎考案の層塔型三重櫓です。北内堀から石垣上までは約 10mの高さがありました。



① **丑寅櫓台** □
隅部には石垣が最も崩れにくいとされる縦横比 2.5：1 の直線的な算木積み石垣を見ることができます。丑寅櫓は津城の鬼門（北東）を守る高虎考案の層塔型三重櫓でした。

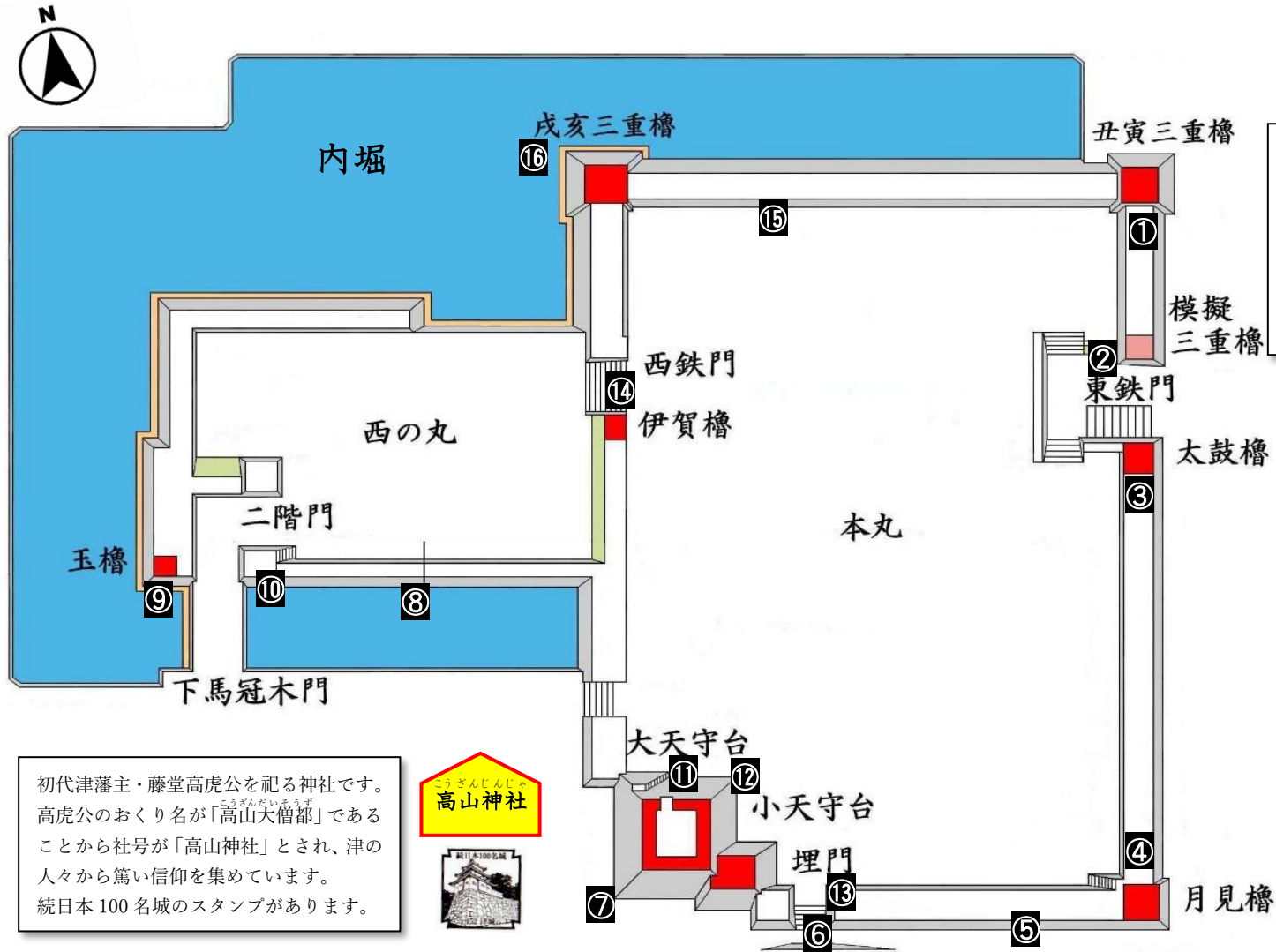


⑪ **大天守台** □
織田信包創建の大天守台を藤堂高虎が改修したものです。入り口の切り裂きの奥には大天守の穴蔵があります。手前右側の石垣の崩れは、天守台取付多門櫓台を取り払った跡です。



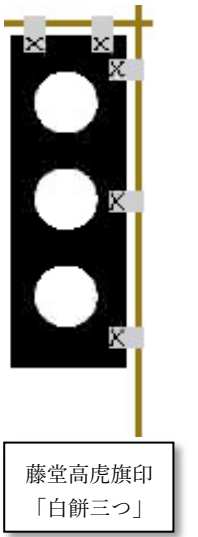
⑩ **西の丸二階門〔櫓門〕台** □
本丸に入るために西の丸に設けられた内郭大手門がありました。大手柵形を形成していました。隅部にはきれいな算木積みが見られます。

津城跡 本丸・西の丸 石垣めぐりマップ



津まんなかガイド詰所

「安濃津ガイド会」が在駐して周辺のガイドを行っています。開所は土日祝日の 9：30～16：00 です。続日本 100 名城のスタンプがあります。



初代津藩主・藤堂高虎公を祀る神社です。高虎公のおくり名が「高山大僧都」であることから社号が「高山神社」とされ、津の人々から篤い信仰を集めています。続日本 100 名城のスタンプがあります。



⑨ **西の丸玉櫓〔西の丸角櫓〕台** □
西の丸には武器庫がありました。手前の木橋西側石垣上には玉櫓と呼ばれる鉄砲の弾丸を収める櫓が建っていました。石垣下の犬走りは石垣修理と石垣崩壊防止のために明治以降に造られました。



⑧ **本丸と西の丸の接続部** □
石垣の積み方がはっきりと分かる場所です。左側が打込みはぎの布積み、右側が明治以降に積まれた谷積み（落とし積み）です。右側の部分は本丸と西の丸を結ぶ土橋となっていました。



⑦ **大天守台と小天守台〔奥〕** □
往時は織田信包創建の望楼型五重天守が建っていました。野面積みに近い打込みはぎで積んであり、隅部は算木積みに近い積み方です。南面には火災によると思われる黒い焼痕を見ることができます。大天守台前の犬走りは約 8m ありました。



⑥ **埋門** □
津城が火災に遭った時に本丸よりの脱出口として寛永16年（1639）に造られました。出た所にある幅約 4mの犬走りを回って東多門櫓・太鼓櫓下から城外に脱出できました。東側は野面積み・西側は打込みはぎ、両隅部は算木積みです。



⑤ **南多門櫓台と旧隅部** □
この部分は津城を築いた織田信包時代の津城最古の野面積み石垣です（写真左側）。中央に見える隅部の出っ張り（旧隅部）は、高虎が津城を拡張した時に写真右側に広げた跡という説と石垣の補強のためという説などがあります。



④ **東多門櫓台と月見櫓台** □
この部分の石垣は昭和 19 年（1944）の東南海地震で大きく崩壊しました。戦後に積み直されましたが、忠実に積まれておらず隅部も算木積みにはなっていません。石垣崩壊を防ぐために石垣の隙間にモルタルが注入してあります。



③ **太鼓櫓台** □
時刻や登城を知らせたりする太鼓が置いてあった二重太鼓櫓台です。高さは 6m ほどありましたが、現在は下の部分が残っています。隅部に算木積みが見られます。太鼓櫓台下には、犬走りから土橋へ渡れる「犬走り板橋」がかけられていました。



② **東鉄門跡** □
この場所には東鉄門を取り巻く柵形が形成されました。南東部石垣上に昭和 33 年（1958）に三重模擬櫓が創建されました。きれいな算木積みや矢穴を見ることができます。